



大賞に選ばれ、表

で開かれ、拉致被害者の全
員救出を訴えた。
集会で救う会奈良の佐藤
一彦会長は「この10年間、
拉致問題が解決に向かう進
展はなかった。今こそ国民
の力で解決すべきであり、
断じて諦めることはできな

も伴い、風化が始まってい
る」とした上で「解決に向
けた国の主体性を回復でき
ない限り解決はない」と指
摘。西村氏は「北朝鮮に対
する経済制裁で効果がある
かは疑問。より強い圧力を
かける政府の体制作りを求
める」と話した。

集会后、参加者は会場近
くで「デモ行進」写真。「被
害者を救出できるのは皆さ
んだけ。ともに戦おう」と
市民らに呼びかけた。

育館	3-0	佐尾留衣花
力向上対	3-0	奈良・京
策本部	3-0	奈良・京
育館	3-0	奈良・京
級準決勝	3-0	奈良・京

を置いた部屋がある素泊まりの
簡易な宿というイメージだが、
町家ゲストハウス三輪は、和室
の個室に布団を敷いて寝て、朝
食も付く。

祥子さんは「旅館並みの施設
で、木のぬくもりが感じられる
宿です。窓からは瓦葺きの三輪
の街並みを見渡せ、『昭和の風
情』を楽しむことができます」
とPRする。

藤村さんは京都府木津川市、
祥子さんは宇陀市出身で昭和51
年に結婚。藤村さんは奈良市内
の自宅から大阪市内の会社に通
勤するサラリーマン生活のお
と、祥子さんの親族が経営する
特別養護老人ホーム（宇陀市）
に12年間勤務した。

退職後、「新しい生活をスタ
ートさせよう」と、空き家とな
っていた現在の民家を見つけ
た。友人でソーシャルファシリ
テーターとして活躍する中野裕
弓さんのアドバイスを受け、ゲ

ストハウスをオープン。中南和
地域には宿泊施設が少ないこと
や、介護の仕事をしていた経験
から「宿泊客と接する『おもて
なし』の仕事もできるのでは」
と考えたという。

宿には外国人を含めて多くの
旅行者が訪れるが、約8割が女
性で、中心は1人旅。三輪山が
いう口コミで評判が広がり、リ
ピーターも多い。6〜7回訪れ
る人もいるという。

宿では、藤村さん夫妻と旅行
者の会話も弾む。藤村さんは
「世界的に活躍する人もいて、
いろんな話が聞ける。視野が広
がり、若い人からは元気がもら
える。全国からやって来るみな
さんに支えられている感じがし
ます」。

一方、空き家だった民家を利用したことで周辺にはにぎわい
が生まれ、地域活性化にも貢献
している。
「三輪の魅力は快適で、落ち
着くところ」と話す藤村さん夫
妻。「第2の人生として、ゲス
トハウスの経営を選択してよか
ったと思っています。私たちに
合った仕事。これまでの人生の
中で今が一番楽しく、充実して
いる。生涯現役のつもりで、こ
れからも宿を発展させていきたく
い」としている。



町家ゲストハウス三輪を経営する藤村和良さんと祥子さん（桜井市）

JR三輪駅に近い桜井市三輪に、築約90年の昭和初期の民家を改修して平成24年11月にオープンした「町家ゲストハウス三輪」がある。経営するのは、奈良市から移り住んだ藤村和良さん（68）と妻の祥子さん（65）。「木のぬくもりが感じられる宿」がキャッチフレーズで、若い女性を中心に全国から訪れる旅行者の人気を集めている。宿は中2階建てで、中2階に鍵のかかる和室が4室（定員12人）。大きな梁を含め、天井や床には吉野産の杉や桧をふんだんに使い、風呂も松づくり。1階には桜のテーブルが配置された木材の町・桜井らしい宿で、市内の建築工房が設計した。部屋の名前は地元「三輪山」のほか、大和三山から付けた「畝傍山」「耳成山」「香久山」。1泊4500円〜7000円。ゲストハウスといえばベッド

『町家ゲストハウス三輪』経営 藤村さん夫妻

築90年の民家改修 旅行者に人気

（野崎貴宮）

奈良市内の眺望処

こよみ

岩崎寺工